

## ■■■「釜ヶ崎の防災・減災を考える」シリーズ(5)

釜ヶ崎のまち再生フォーラム（事務局長）ありむら潜

防災 De わがまち見直し散歩

+防災座談会 “平常時にできること”

語り手：長田中稔昭（日本災害救援ボランティアネットワーク理事長）

### ▼街歩きルポ

この日、16:00にJR新今宮駅に集合し、田中稔昭さん（日本災害救援ボランティアネットワーク理事長）といっしょに防災の目で釜ヶ崎の街をあらためて見てまわりました。

計5人。

あいりん総合センター→「もしこの巨大ビルが倒壊しなければ、かつこの避難場所になるかも」

林立する簡易宿泊所群→「耐震強度は大丈夫なのだろうか。弱いかも」。

萩之茶屋小学校東沿いの“屋台通り”→「簡単に倒れて、火災になる心配がありますよね」。

日頃から金網で囲まれて中に入れないようにされている公園→「万が一のときは町会長さんがカギであけることになっている」。

シェルターや炊き出し風景→「ね、この街では非常時の光景がふだんから展開されている街なんですよ。もしかしたら、どの街よりも災害に耐えられるかもしれないね（笑うしかない）」

（→添付写真はフェンスで囲まれた公園を案内する私たち）

### ▼座談会参加者： 街歩き6人、座談会12人。

「予想どおり」少人数の集まりになりました。たった12人。ガハハ。

しかし、萩之茶屋連合町会長さんと第5、第6町会長さんが含まれています。

第5町会長さんは区指定の「防災リーダー」の隊長にもなっているとのこと。

これはたいへんなことです。なぜなら、防災の要＝「さまざまな住民層の相互理解と助け合い」、つまり共助につながるからだからです。

「といっても、ふだん何もしてませんよ（笑）。われわれの取り組みもその程度のものでしかおまへん」。だから、勉強に来ました、とのこと。

居宅保護のおっちゃんが4人。西成労働福祉センター発行の「センターだより」に記事を書く職員さんも。

\*\*\*\*\*

○行政、支援団体・施設、住民一人ひとりに向けた3つの呼びかけが結論となりました。

○避難先としてあいりん総合センターの活用ができるかも、とのプラス情報もたらされました。

\*\*\*\*\*

▼座談会で浮き彫りになったこと。

少ない情報の中での推測の域を出ないので、まちがいも含んでいるかもしれませんが、「3方向への呼びかけ」をすることになりました。

### 1) 行政へ

阪神大震災以後の取り組みのなかで、もしここが一般住宅区域のみであれば、大阪市や西成区役所の対策はそれなりになされているように思われる。

しかし、日雇い労働者・野宿生活者・居宅保護生活者など、狭い区域に2万人にもおよぶ膨大な労働者コミュニティが存在する。その部分に対応する対策はされていないのではないか。たとえば、緊急物資の備蓄量や避難場所が居住者数に見合っていない。たしかに行政には気の毒なくらい、あまりに多くの課題がある。それゆえに手をつけていないように思われる。

たとえば、萩之茶屋小学校、今宮中学校だけでなく、今宮工科高校にも備蓄しないと全地域をカバーできないのではないか。

そもそも、労働者たちに万一のときはどこに行けばいいかという情報くらいは出しておくべきだろう

→行政に率直な状況を聞き、対応を求めていく必要がある。

### 2) 地域の支援団体・施設のみなさんへ

町会サイドでは防災リーダーなども選ばれ、定期的に一定の訓練もされている。が、労働者サイドではそのような態勢どころか、会合の場すらもたれないでいる。これはなんとかしないとイケない。とりわけ、初めは大きな組織だけでもいいから話し合いの場をもつべきではないか。

そもそも「地域福祉アクション・プラン」でも、自分たちが抱えている要援護者をあらかじめ登録してもらうとともに、「緊急時に備えた地域づくり」への参加協力が期待されている。

### 3) 労働者系住民一人ひとりの方々へ

阪神大震災での死亡原因などからすると、いざとなれば役所や隣り近所からの助けには限界がはっきりしていて、「公助1：共助2：自助7」という割合になる。つまり、7割は

自分の力で切り抜けないといけない。日頃からの減災意識をもって逃げ道や避難先を考えておくこと、生活の中でまわりの人々となるべくたくさんつながりをつくっておくこと。これをおっちゃんたちには呼びかけたい。

▽その他（あいりん総合センターは活用できるかも）

これまでの議論では「あいりん総合センターは構造上、地震に弱いだろう」と前提され、選択肢からはずされてきましたが、「いや、耐震性がかなり高い！」との見方が出てきました（この建築構造をよく知る人々の観測）。

すると、「小・中学校という避難先への人々の過度な集中から来る町会住民層と労働者住民層の間の摩擦問題」をクリアできるのではないかと、ということになります。

もしそうであれば、72時間を混乱を最小限度におさえどう持ちこたえるかの問題に朗報です。

強み：ビルの中でありながら、1、2階とも巨大なオープンスペースから成り（いっぺんに数千人が入れる）、出入り口はどこからでも自由、トイレもたくさんついている。ふだんから慣れ親しんでいる、など。

課題：水や食糧の備蓄はされていないように思われる。

（炊き出し機能は幸か不幸か、ふだんからあるわけだから。なお、大きな釜をもっとふだんから集めておくべきだろう）

そうしたときのリーダーとコーディネート体制が必要。

（阪神の経験では避難所間の格差がでる。これはリーダーの力、コーディネートの力の格差によることが多い）

→ 役所への提案事項。

以上